

日本の SNS におけるセクシュアルマイノリティの多様な体験

恩田 直幸

実生活で様々な困難を抱えるセクシュアルマイノリティにとって、SNS は、他の当事者ユーザーの発信を通じてセクシュアリティに関する様々な情報を入手でき、また、実際にそれらのユーザーと交流を行うこともできるという点で、非常に重要なメディアである。セクシュアルマイノリティの SNS 利用に関しては、主に英語圏で多くの研究が蓄積されているものの、日本国内の研究は極めて少ない。しかし、文化圏が異なれば SNS 利用の形態や広く利用されている SNS の種類は異なるため、日本のセクシュアルマイノリティが SNS 上でどのような体験をしているのかを明らかにすることは、日本の当事者が実生活や SNS 上で直面している困難や、その困難への対処法を具体的に理解するために、非常に重要である。

本研究では 7 名のセクシュアルマイノリティを対象に半構造化インタビューを実施し、そこで得られた語りを再帰的テーマティック分析によって分析した。その結果、日本の SNS におけるセクシュアルマイノリティの体験について、以下の 4 つのテーマが生成された。

(1) セクシュアリティに関する情報の入手 - 当事者たちは SNS 上で、自分と同じセクシュアリティを持つ当事者や、多様なセクシュアリティを持つ人々が発信した情報を探索する、あるいは偶然目にするによって、様々な学びや安心感を得ていた。当事者たちにとって、他の当事者のリアルな声は重要な情報源であった (2) 他の当事者との出会い - 当事者たちは SNS を通じて他の当事者と交流を行い、実際に出会いを果たしていた。出会いの場としては、SNS 以外に対面の当事者コミュニティも多く利用されているものの、これらの場にはそれぞれ異なる利点と問題点が存在するため、当事者たちは自分なりの考え方にに基づき、より利用しやすい場を選択していた。(3) 直接的・間接的なカミングアウト - 当事者たちは SNS の機能を利用することで、情報を公開する範囲を制限しながら、自分のセクシュアリティに関する発信を行っていた。一方で、自分の行動が望まない相手へのカミングアウトや、他者からの攻撃に繋がるのではないかと、という警戒心も常に存在した。また、当事者たちが自分のありのままの姿や思いを発信することは、他の当事者がセクシュアリティに関する学びを得ることに繋がっていた。(4) ネガティブな体験 - 当事者たちは SNS 上で差別言説などの不快な情報に遭遇し、様々な方法でそれに対処していた。また、当事者たちは X (Twitter) 上で、トランスジェンダー女性に対する攻撃的な言説を頻繁に目にしていた。

本研究は、協力者が 7 名と少人数であり、また筆者が協力を依頼しやすかった当事者に限られているという点に限界があるが、これまでほとんど注目されてこなかった、日本の SNS におけるセクシュアルマイノリティの多様な体験を、具体的かつ包括的に描き出すことに成功しているという点で大きな意義がある。今後は、より多様な当事者の SNS 利用に関する語りに耳を傾けるとともに、具体的な社会的支援の方策を検討することが重要である。

(指導教員 松林 麻実子)